

記述目録

番号		記述部分
1	280頁5行目から同頁11行目まで	<p>全国学協結成直後から、原告の暗躍は始まった。 「気心の知れた後輩に、密命を授けるんです。Dを尾行しろと。Dに女のコを引き合わせろと。部屋に忍び込んで持ち物を探れと。Dさん、もともと忙しいし、カラッとした性格だから、そんな策略あるなんて露とも知らない。だから会いたって人が出てきたら、誰だろうがひよひよい会っちゃう。いろんな話もする。それが原告さん流のハニートラップってやつだろうねえ」 (前出の証言者) Dはこのハニートラップをはじめとする原告の仕掛けた罠にまんまと引っかかる。</p>
2	281頁7行目から同頁12行目まで	<p>ここまで材料が揃えば、あとは原告の思う壺だ。 「実に巧妙でした。自分では決して動かずに『Dは日学同に運動を売った』とか『暴力を振るうのは、生長の家の信徒としていかなものか』という風聞を、後輩学生に吹きこませるんです。で、人を使って、原宿(生長の家本部を指す)にもDさんの悪評を流す。……」(前出の証言者)</p>
3	282頁1行目から同頁2行目まで	<p>「僕も、原告さんから膝詰めで謀略を頼まれたことがある。言いたくないほど汚い内容です。」</p>
4	289頁5行目から290頁1行目まで	<p>土台無理がある100万部達成のために、青年会に所属する学生や社会人1年生は消費者金融に手を出してまで『理想世界』を買うことを余儀なくされた。当時、消費者金融の取り立ては社会問題化していたほど苛烈を極めていた。結果、自殺者も出たという。しかし、そんなことは原告には馬耳東風であった。原告は、「P尊師のお教えを、日本の青年に広めるのだ。そのためには諸君らの『光の弾丸』が必要だ」と演説し、周囲は、それに心酔し、熱狂が集団を支配していた。 この「光の弾丸」とは、カネのことだ。原告は決してカネを出せとは言わない。また、お布施を推奨するわけでもない、あくまでも、『理想世界』を買えと言うだけだ。しかしそれは同時に創価学会でいえば「財務」と称される献金活動に他ならない。「財務」の結果、苦しむ人が出たとしても、原告が提示した運動目標を見事にクリアした事実は揺るぎない。こうした活動を経て、その後彼は、生長の家政治局政治部長に就任する。</p>

番号		記述部分
5	292頁3行目 から同頁14行 目まで及び29 3頁5行目	<p>原告の類稀なる，策士・運動家・オルガナイザー・名演説家としての実績と，彼個人の人格的魅力，そして，「Pとの個人的紐帯」に裏付けられた権威。これでは，原告には誰も逆らえないだろう。</p> <p>「実際そうですよ，誰も原告さんには逆らえない。いまだに，EさんMさんNさんOさんは，毎月，原告さんの家でミーティングしているはずですよ。少なくとも，元号が平成に変わる頃までは，毎月，原告さんの家に集まった。みんな原告さんの前では直立不動でね。原告さんが，運動の指示をいろいろ出すの。で，それぞれが運動の現場に戻ると，『原告さんはこうおっしゃってた』と自分たちの部下に話す。よく訓練されたセクトですよ。まるっきりセクト。笑っちゃうでしょ。でもね，彼らは真剣なの。あの頃のまま，学生運動をやり続けているの」</p> <p>彼らは，いまだに学生運動を続けている。70年安保の時代の空気をまとったまま，運動を続けている。</p> <p>我々はまだ，C大学正門前のゲバルトの延長を，生きている。</p>